

# 浦島伝説

令和6年10月11日

第20号



## 「嫌いな香りも混ぜましょう。香りが引き立ちます」

お香の老舗「松栄堂」(京都)が主催した「匂い香づくり教室」での講師の台詞だ。参加した小学5年生の女子児童は好きな「ラベンダー」を入れた小袋に「竜腦」を



少し加え、独自のお香をブレンドした。ノートに「竜腦は防虫剤のような匂いがしたが、混ぜると香

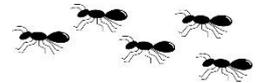
りがさわやかになった」と書き込んだ。好きな香りに嫌いな匂いも混ぜるとよいという発想に驚いた。

## 七味と一味、どちらが辛い？

結論は一味の方が辛い。一味は唐辛子だけ。七味には、唐辛子に加え、山椒、麻の実、黒胡麻、けしの実、青のり、生姜などが入っている。唐辛子以外に山椒や生姜もそれだけで辛いのに、違う種類の辛いものを混ぜることで辛さが和らぐのは不思議な気がする。



働きアリの集団には、必ず遊んでいるアリがいるそうだ。働いているアリだけを選んで新しい集団をつくっても、遊ぶアリが2割ほど出てくるといふ。全員が一生懸命に働くと同じ時期に疲れてしまう。危機が訪れたとき、対応できるため常に2割のアリは休憩して交代しているらしい。また2割のウロウロと遊んでいるアリが新しいエサを発見することも重要だそうだ。



「毎日、楽しいことばかりして過ごせたらどんなにいいだろう」と考えるが、実現したらそんな生活はつまらない、味毛のないものなのかもしれない。日常には、時としてスパイスが必要なのだろう。

人の集団も一緒かもしれない。似たような環境で、似たような考えと発想が似たような人たちばかりの集団は面白味に欠けるのだろう。人は自分に似た人よりも、自分にはない自分と違うものをもつ人にあこがれるらしい。

今の自分の生活環境は、似たようなものだけで囲まれていないだろうか？自分と同じような考えの友達ばかりになっていないか？自分と異なる考えの人と交流できている？